

～外来化学療法患者における 薬薬連携について～

さいたま赤十字病院 第17回レジメン研修会
2024/5/24 (金) 18:00～ 納谷 友里恵

COI開示

今回の演題に関連して、
発表者の開示すべき利益相反はありません

本日の内容

- 当院化学療法室について
- 連携充実加算/トレーシングレポートについて
と当院における流れ
- トレーシングレポートでフォローアップする内容

本日の内容

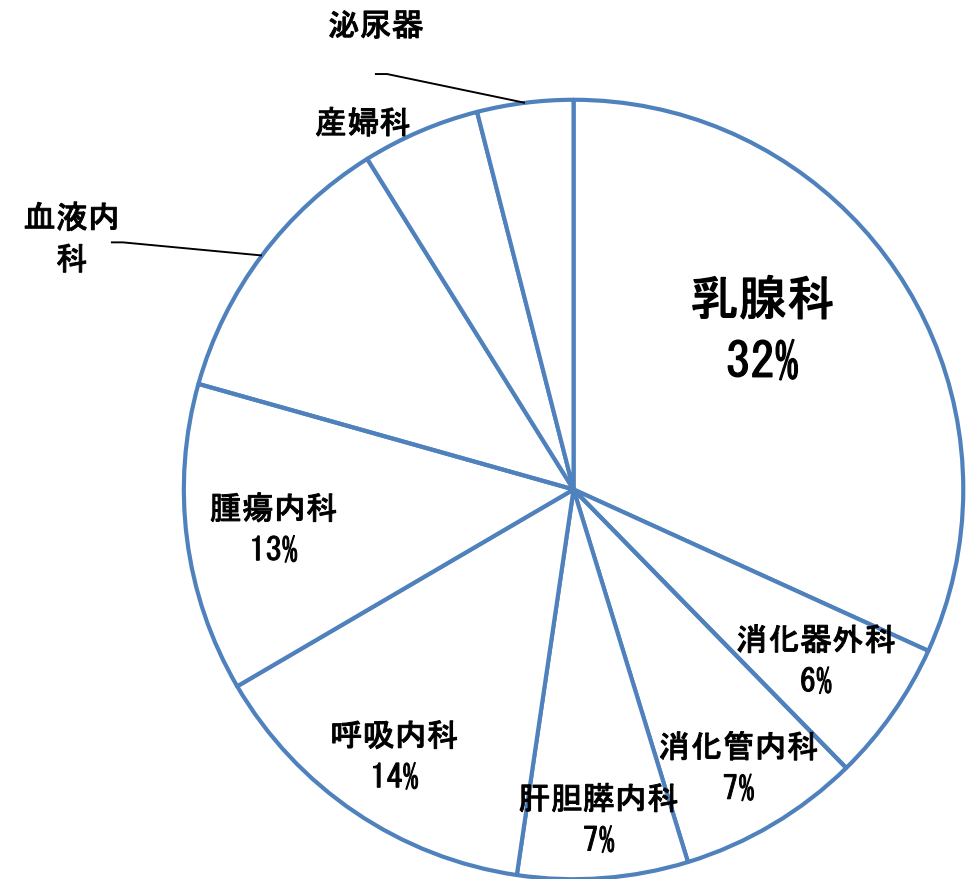
- 当院化学療法室について
- 連携充実加算/トレーシングレポートについて
と当院における流れ
- トレーシングレポートでフォローアップする内容

当院の外来化学療法室について



病床数：30床
(うち1床は緊急処置用)

外来化学療法室患者割合



2023年1月～2023年12月

本日の内容

- 当院化学療法室について
- 連携充実加算/トレーシングレポートについて
と当院における流れ
- トレーシングレポートでフォローアップする内容

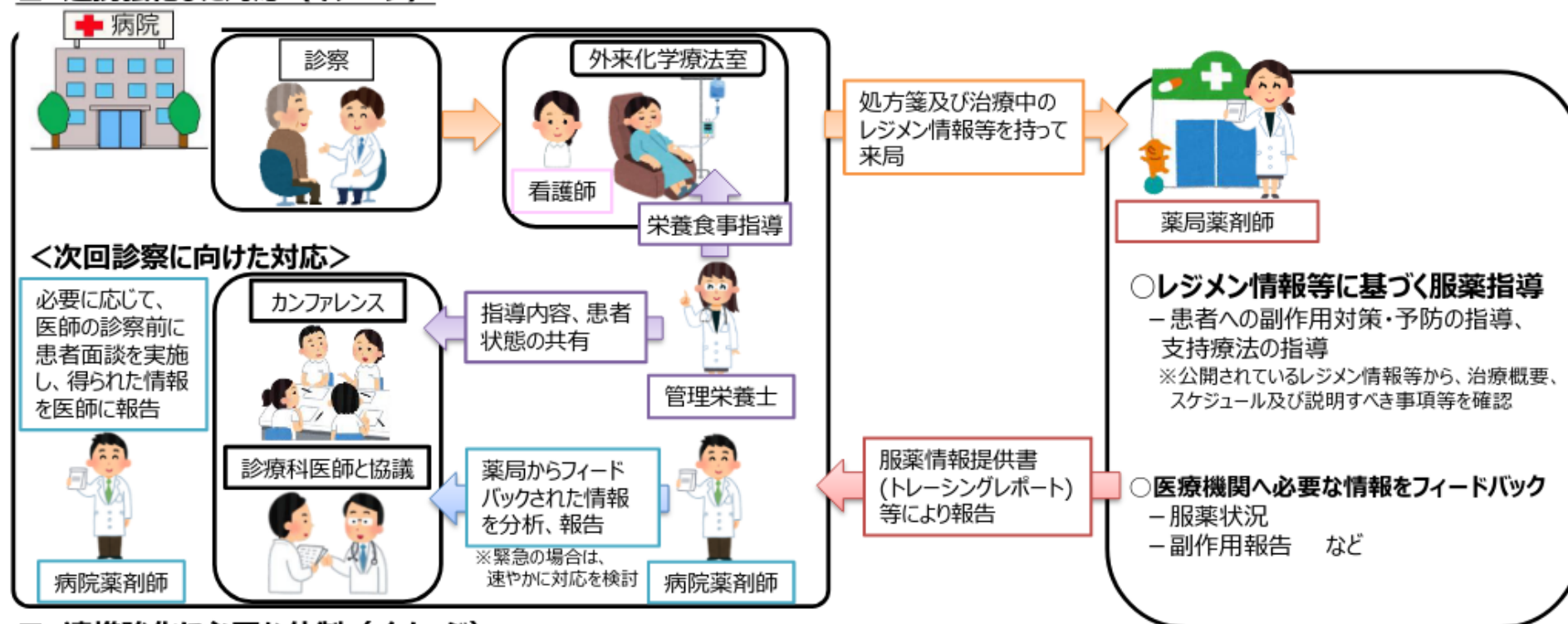
外来化学療法の質向上のための総合的な取組(イメージ)

中医協 総 - 1
元. 1 1 . 2 2

検討項目

- 医療機関と薬局の連携の推進、医療機関の薬剤師の積極的な関与の推進
- 外来化学療法を受けている患者の状態に配慮した、管理栄養士の積極的な関与の推進

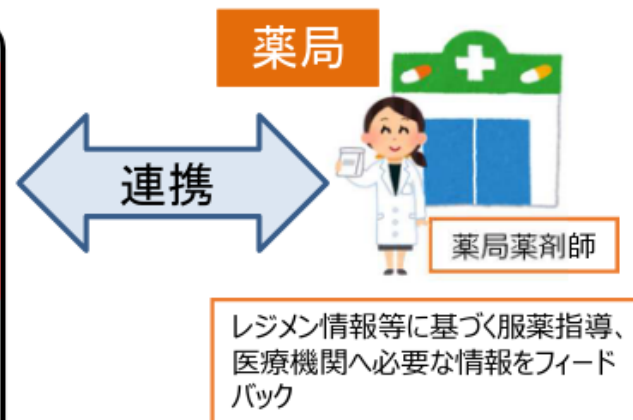
連携強化した対応(イメージ)



連携強化に必要な体制(イメージ)

医療機関	○ 地域の薬局との連携体制の整備 ▶レジメン情報等の共有 ▶定期的なレジメン等の説明会、勉強会等の実施 ▶がん化学療法に対する薬局との連絡窓口の設置 ○ 薬局から得られた情報を分析・整理し、診療に活用することができる体制の整備	薬局	○ 医療機関との連携体制の整備 ▶レジメン等の理解のための説明会、勉強会等への参加 ○ 患者から得られた情報を分析・整理し、医療機関にフィードバックすることができる体制の整備
------	---	----	---

外来がん化学療法の質向上のための総合的な取組



質の高い外来がん化学療法の評価

（新）連携充実加算 150点（月1回）

- 患者にレジメン（治療内容）を提供し、患者の状態を踏まえた必要な指導を行うとともに、地域の薬局薬剤師を対象とした研修会の実施等の連携体制を整備している場合の評価を新設。

外来栄養食事指導料の評価の見直し

- 外来化学療法の患者は、副作用による体調不良等により、栄養食事指導を計画的に実施することができないことから、患者個々の状況に合わせたきめ細やかな栄養管理が継続的に実施できるよう、外来栄養食事指導料について、要件を見直す。

薬局でのレジメンを活用した薬学的管理等の評価

（新）特定薬剤管理指導加算2 100点（月1回）

以下の取組を評価

- 患者のレジメン等を把握した上で必要な服薬指導を実施
- 次回の診療時までの患者の状況を確認し、その結果を医療機関に情報提供

抗がん剤治療情報提供書

通常用と免疫チェックポイント阻害薬 単独用の2種類あり

(副作用評価はCTCAE v5.0を元に作成)

有害事象	該当なし	グレード1	グレード2	グレード3
悪心(吐き気)	☐	☐ 食事に影響のない食欲低下がある。	☐ 明らかな体重減少(1kg程度以上)や脱水はない。食事は減少する。	☐ 食事に影響が十分でない。入院して点滴治療等が必要である。
嘔吐	☐	☐ 症状が軽く、経過をみる事が可能である。	☐ 外来での点滴治療や内服治療が必要である。	☐ 入院して点滴治療等が必要である。
口腔粘膜炎(口内炎)	☐	☐ 症状が軽く、経過をみる事が可能である。	☐ 痛みや潰瘍がある。食事内容は症状に合わせる必要がある。食事は取れる。	☐ 痛みがあり、食事が取れない。
味覚異常	☐	☐ 食事量の減少しない味覚変化がある。	☐ 不快な味や味覚がなくなる等の食事量に影響する味覚変化がある。	
便秘	☐	☐ 時々下剤等を使用する。	☐ 毎日下剤等を使用する。日常生活に影響は少ない。	☐ 排便する必要がある。日常生活に影響がある。
下痢	☐	☐ 普段と比べて排便回数が1日3回の範囲内で増える。	☐ 普段と比べて排便回数が1日4-6回増える。日常生活に影響は少ない。	☐ 普段と比べて排便回数が1日7回以上に増える。日常生活に影響がある。
倦怠感	☐	☐ 軽いだるさがある。	☐ 中程度のだるさがあるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強いだるさがあり、日常生活に影響がある。
関節痛	☐	☐ 軽い痛みがある。	☐ 中程度の痛みがあるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痛みがあり、日常生活に影響がある。
筋肉痛	☐	☐ 軽い痛みがある。	☐ 中程度の痛みがあるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痛みがあり、日常生活に影響がある。
末梢性感覚ニューロパチー(手足のしびれ)	☐	☐ 軽い症状がある。日常生活に影響がない。	☐ 中程度の症状があるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強い症状があり、日常生活に影響がある。

抗がん剤治療情報提供書

ID @PATIENTID 患者氏名 @PATIENTNAME @SYSDATE3

①実施しているレジメ(レジメ登録No レジメ名)

レジメ登録No

②レジメの実施状況

コース目

③抗悪性腫瘍薬等の投与量

体表面積㎡→ 体重kg→

④前コースでの主な有害事象(副作用)の発現状況(CTCAE v5.0):該当する箇所に■チェックされます。

血液・生化学検査結果は処方せんを参照してください。

有害事象	該当なし	グレード1	グレード2	グレード3
悪心(吐き気)	☐	☐ 食事に影響のない食欲低下がある。	☐ 明らかな体重減少(1kg程度以上)や脱水はない。食事は減少する。	☐ 食事に影響が十分でない。入院して点滴治療等が必要である。
嘔吐	☐	☐ 症状が軽く、経過をみる事が可能である。	☐ 外来での点滴治療や内服治療が必要である。	☐ 入院して点滴治療等が必要である。
口腔粘膜炎(口内炎)	☐	☐ 症状が軽く、経過をみる事が可能である。	☐ 痛みや潰瘍がある。食事内容は症状に合わせる必要がある。食事は取れる。	☐ 痛みがあり、食事が取れない。
味覚異常	☐	☐ 食事量の減少しない味覚変化がある。	☐ 不快な味や味覚がなくなる等の食事量に影響する味覚変化がある。	
便秘	☐	☐ 時々下剤等を使用する。	☐ 毎日下剤等を使用する。日常生活に影響は少ない。	☐ 排便する必要がある。日常生活に影響がある。
下痢	☐	☐ 普段と比べて排便回数が1日3回の範囲内で増える。	☐ 普段と比べて排便回数が1日4-6回増える。日常生活に影響は少ない。	☐ 普段と比べて排便回数が1日7回以上に増える。日常生活に影響がある。
倦怠感	☐	☐ 軽いだるさがある。	☐ 中程度のだるさがあるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強いだるさがあり、日常生活に影響がある。
関節痛	☐	☐ 軽い痛みがある。	☐ 中程度の痛みがあるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痛みがあり、日常生活に影響がある。
筋肉痛	☐	☐ 軽い痛みがある。	☐ 中程度の痛みがあるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痛みがあり、日常生活に影響がある。
末梢性感覚ニューロパチー(手足のしびれ)	☐	☐ 軽い症状がある。日常生活に影響がない。	☐ 中程度の症状があるが、日常生活に影響は少ない。	☐ 強い症状があり、日常生活に影響がある。

今後上記のグレード3、症状が辛いグレード2に該当する場合や38度の発熱が続く場合は医師へ連絡してください。

⑤その他 医学・薬学的管理上必要な事項

院外調剤薬局薬剤師の方へ 上記の内容をご確認の上、処方箋・服薬指導にご活用ください。
利用方法は当院ホームページ内の医療関係者の方へ→薬・薬連携→抗がん剤治療情報提供書を受け取られた院外調剤薬局の方々にあります。

さいたま赤十字病院 薬剤部 @USERNAME 印

当院のレジメンについて

薬-薬連携

患者情報提供に関すること

薬剤管理サマリーに関すること

抗がん剤治療に関すること

処方箋・調剤に関すること

薬品採用に関すること

サポート薬局との連絡会に関すること

抗がん剤治療に関すること

「抗がん剤治療情報提供書」を受け取られた保険薬局の方々へ

当院ではがん薬物療法における患者の安全性を高めるため、保険薬局との連携（情報共有）をしております。患者から『抗がん剤治療情報提供書』を提示された場合には、記載された〈レジメ登録No〉と〈レジメ名〉を基に当院ホームページより実施しているレジメ情報を参照してください。尚、ホームページに掲載されたレジメ情報の投与量、投与スケジュール、支持療法等は患者の状態により変更する場合があります。また『抗がん剤治療情報提供書』にはレジメの実施状況や前コースでの有害事象や医学・薬学的管理上必要な事項も記載しておりますので、服薬指導や薬学的管理にお役立てください。

患者より現コースでの服薬状況や有害事象（副作用）等の情報が得られた場合は、『抗がん剤治療に関する患者情報提供書』にその内容を記載し、FAXにて薬剤部まで送信してください。保険薬局からフィードバックされた情報は、当院薬剤師から主治医にその情報を伝え、次の診療に反映出来るようにします。

尚、当院では連携充実加算を算定しています。

FAX送付先 048-852-1157

本件に関する質問 048-852-1111（内線20064） 平日8:30-17:00

抗がん剤治療に関する患者情報提供書

がん化学療法用 [PDF版](#)  / [EXCEL版](#) 

がん化学療法用：
免疫チェックポイント阻害剤単独 [PDF版](#)  / [EXCEL版](#) 

レジメ

登録No別

診療科別

薬-薬連携

患者情報提供に関すること

薬剤管理サマリーに関すること

抗がん剤治療に関すること

処方箋・調剤に関すること

薬品採用に関すること

サポート薬局との連絡会に関すること

レジメ登録No 000-050

000-050	051-100	101-150	151-200	201-250	251-300	300-350	351-400	401-450	451-500	501-550
● 000-1, 2 Weeklyハーセプチン  ● 000-3, 4 Tri-Weeklyハーセプチン  ● 001 CHOP (CHFP)  ● 002 R-CHOP (R-CHFP)  ● 002-1 R-CHOP  ● 002-5 R-CHFP  ● 003 THP-ADM COP  ● 004 CMFP  ● 005 MACOP-B  ● 006 EPOCH (salvage療法)  ● 007 リツキササン療法  ● 008 COPP  ● 009 ABVD  ● 010 COPP/ABV Hybrid療法  ● 011 ROAD  ● 012 VAD  ● 013 JALSG・AML92 寛解導入療法  ● 014 JALSG・AML92 寛解導入療法 (M3)  ● 015 JALSGーAML97 寛解導入療法  ● 016 JALSGーAML97 地固めA療法 										

診療科名

診療科
乳腺科

疾患名
トリプルネガティブ乳癌

疾患名

レジメン名

レジメン名
術前キイトルーダ+(W)カルボプラチン+パクリタキセル療法

投与間隔
1コース 3週間 計 4コース

投与間隔、
必要コース数

商品名	一般名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日				
						day1	day8	day15		
キイトルーダ	ペムブロリズマブ		200mg/body/day	div	30min	●				
カルボプラチン	カルボプラチン	CBDCA	AUC 1.5/day	div	1hrs	●	●	●		
タキソール	パクリタキセル	PAC	80mg/m ² /day	div	1hrs	●	●	●		

投与スケジュール

使用薬剤名
投与量、投与方法
投与時間

備考
静注制吐剤としてday1、8、15にグラニセロン注3mg、デカドロン注3.3mg使用

制吐剤、主な副作用、infusion reaction予防薬、
投与基準、枝分かれレジメンについてetc.
(記載内容は各レジメンで異なる)

登録年月日
2023 年 4 月 日

登録No.
No. 511-2

レジメンNo.

薬局における対人業務の評価の充実

がん患者に対する薬局での薬学的管理等の評価

- 薬局が患者のレジメン(治療内容)等を把握した上で必要な服薬指導を行い、次回の診療時までの患者の状況を確認し、その結果を医療機関に情報提供した場合について新たな評価を行う。

(新) 薬剤服用歴管理指導料 特定薬剤管理指導加算2 100点(月1回まで)

[対象患者]

連携充実加算を届け出ている保険医療機関で抗悪性腫瘍剤を注射された患者であって、当該保険薬局で抗悪性腫瘍剤や制吐剤等の支持療法に係る薬剤の調剤を受ける患者

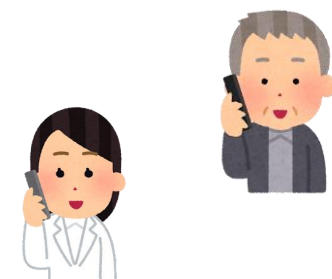
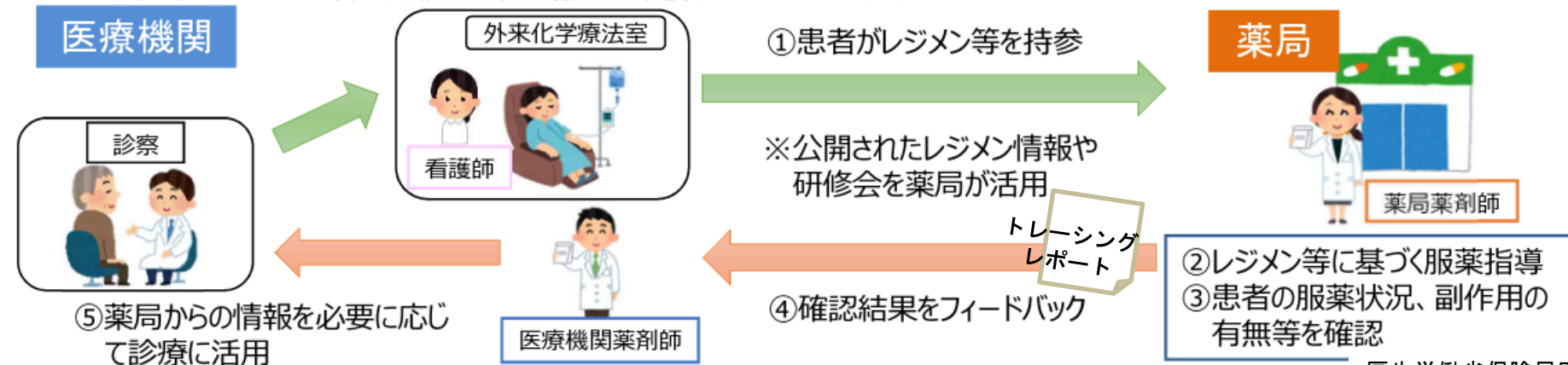
[算定要件]

当該患者のレジメン(治療内容)等を確認し、①必要な薬学的管理及び指導を行うとともに、②電話等により抗悪性腫瘍剤及び制吐剤等の支持療法に係る薬剤に関し、服用状況、副作用の有無等について患者に確認し、当該保険医療機関に必要な情報を文書等により提供した場合に算定する。

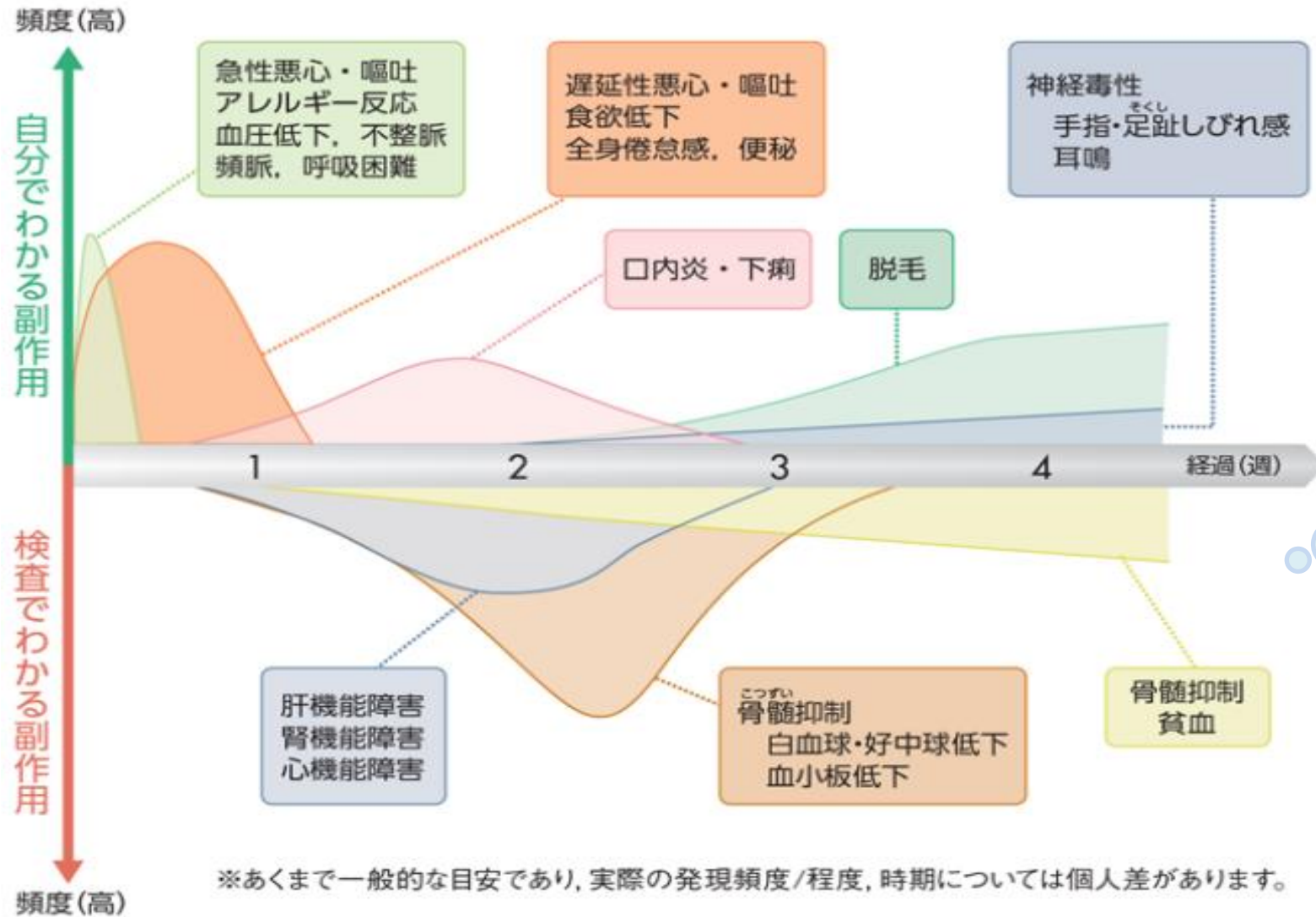
[施設基準]

- (1) パーテーション等で区切られた独立したカウンターを有するなど、患者のプライバシーに配慮していること。
- (2) 保険医療機関が実施する抗悪性腫瘍剤の化学療法に係る研修会に年1回以上参加していること。

※ 令和2年9月30日までの間は、研修会に関する規定の基準を満たしているものとする。



(一部改変)



副作用の発現時期を考慮し
化学療法の 数日～1週間前後
にフォローアップ



☒ 抗がん剤の主な副作用と発現時期の目安

出典：国立がん研究センター がん情報サービス「化学療法全般について」

当院のトレーニングレポート

薬-薬連携

患者情報提供に関すること

薬剤管理サマリーに関する
こと

抗がん剤治療に関すること

処方箋・調剤に関すること

薬品採用に関すること

サポート薬局との連絡会に関
すること

抗がん剤治療に関すること

「抗がん剤治療情報提供書」を受け取られた保険薬局の方々へ

当院ではがん薬物療法における患者の安全性を高めるため、保険薬局との連携（情報共有）をしております。患者から『抗がん剤治療情報提供書』を提示された場合には、記載された〈レジメ登録No〉と〈レジメ名〉を基に当院ホームページより実施しているレジメ情報を参照してください。尚、ホームページに掲載されたレジメ情報の投与量、投与スケジュール、支持療法等は患者の状態により変更する場合があります。また『抗がん剤治療情報提供書』にはレジメの実施状況や前コースでの有害事象や医学・薬学的管理上必要な事項も記載しておりますので、服薬指導や薬学的管理にお役立てください。

患者より現コースでの服薬状況や有害事象（副作用）等の情報が得られた場合は、『抗がん剤治療に関する患者情報提供書』にその内容を記載し、FAXにて薬剤部まで送信してください。保険薬局からフィードバックされた情報は、当院薬剤師から主治医にその情報を伝え、次の診療に反映出来るようになります。主治医と協議し対応した内容は後日フィードバックします。

尚、当院では連携充実加算を算定しています。

FAX送付先 048-852-1157

本件に関する質問 048-852-1111（内線20064） 平日8:30-17:00

抗がん剤治療に関する患者情報提供書

がん化学療法用

[PDF版](#)  / [EXCEL版](#) 

がん化学療法用：

免疫チェックポイント阻害剤単独

[PDF版](#)  / [EXCEL版](#) 

↑ ページの先頭へ

FAX番号 048-852-1157 **さいたま赤十字病院 薬剤部**

抗がん剤治療に関する患者情報提供書(薬剤師→処方医)

※ 本FAXは即時対応しておりません。お問い合わせは、各診療科に電話連絡にてお願いいたします。

さいたま赤十字病院

診療科名

医師宛

情報提供元保険薬局の所在地および名称

電話

FAX

保険薬剤師名

患者ID	患者名	生年月日	レジメン名又は 抗がん剤名	レジメン施行日	確認日
	男・女	年 月 日 (生)		年 月 日	年 月 日

有害事象	該当なし	グレード1	グレード2	グレード3
悪心(吐き気)	☐	☐ 食事に影響のない 食欲低下がある。	☐ 明らかな体重減少(1kg程度以上)や 脱水はない。食事は減少する。	☐ 食事が十分でない。 入院して点滴治療が必要である。
嘔吐	☐	☐ 症状が軽く、経過をみる事が 可能である。	☐ 外来での点滴治療や内服治療が必要 である。	☐ 入院して点滴治療が必要である。
口腔粘膜炎 (口内炎)	☐	☐ 症状が軽く、 経過をみる事が可能である。	☐ 痛みや潰瘍がある。食事内容は症状 に合わせる必要がある。食事は取れ る。	☐ 痛みがあり、食事が取れない。
味覚障害	☐	☐ 食事に影響のない 味覚変化がある。	☐ 不快な味や味覚がなくなる等の 食事に影響する味覚変化がある。	
便秘	☐	☐ 時々下剤等を使用する。	☐ 毎日下剤等を使用する。 日常生活に影響は少ない。	☐ 排便する必要がある。 日常生活に影響がある。
下痢	☐	☐ 普段と比べて排便回数が 1日3回の範囲内で増える。	☐ 普段と比べて排便回数が1日4-6回 増える。日常生活に影響は少ない。	☐ 普段と比べて排便回数が1日7回以上 に増える。日常生活に影響がある。
倦怠感	☐	☐ 軽いだるさがある。	☐ 中程度のだるさがあるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強いだるさがあり、 日常生活に影響がある。
関節痛	☐	☐ 軽い痛みがある。	☐ 中程度の痛みがあるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痛みがあり、 日常生活に影響がある。
筋肉痛	☐	☐ 軽い痛みがある。	☐ 中程度の痛みがあるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痛みがあり、 日常生活に影響がある。
末梢性感覚 ニューロパシー (手足の痺れ)	☐	☐ 軽い症状がある。 日常生活に影響はない。	☐ 中程度の症状があるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い症状があり、 日常生活に影響がある。

その他
(服薬状況等含む)

<今回医師に伝えたい事項>

<今回指導した内容・提案事項等>

FAX番号 048-852-1157 **さいたま赤十字病院 薬剤部**

抗がん剤治療(免疫チェックポイント阻害剤単独)に関する患者情報提供書(薬剤師→処方医)

※ 本FAXは即時対応しておりません。お問い合わせは、各診療科に電話連絡にてお願いいたします。

さいたま赤十字病院

診療科名

医師宛

情報提供元保険薬局の所在地および名称

電話

FAX

保険薬剤師名

患者ID	患者名	生年月日	レジメン名又は 抗がん剤名	レジメン施行日	確認日
	男・女	年 月 日生		年 月 日	年 月 日

有害事象	該当なし	グレード1	グレード2	グレード3
咳	☐	☐ 軽い咳がある	☐ 中程度の咳があるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い咳があり、日常生活に影響 がある。
息切れ	☐	☐ 階段や坂道で 息切れがある。	☐ 平地歩行時に息切れがあるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 安静時にも息切れがあり、 着替えなど日常生活に影響がある。
腹痛	☐	☐ 軽い腹痛がある。	☐ 中程度の腹痛があるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い腹痛があり、日常生活に影響 がある。
下痢	☐	☐ 普段と比べて排便回数が 1日3回の範囲内で増える。	☐ 普段と比べて排便回数が1日4-6回 増える。日常生活に影響は少ない。	☐ 普段と比べて排便回数が1日7回 以上に増える。日常生活に影響がある。
倦怠感	☐	☐ 軽いだるさがある。	☐ 中程度のだるさがあるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強いだるさがあり、日常生活に影響 がある。
食欲不振	☐	☐ 食事量の低下を伴わない 食欲低下	☐ 明らかな体重減少(1kg程度以上)や 脱水はない。食事は減少する。	☐ 食事が十分でない。 入院して点滴治療が必要である。
筋力低下	☐	☐ 力が入りにくい。	☐ 中程度の筋力低下があるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い筋力低下があり、日常生活に影響 がある。
関節痛	☐	☐ 軽い痛みがある。	☐ 中程度の痛みがあるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痛みがあり、日常生活に影響 がある。
掻痒感	☐	☐ 軽い痒みがある。	☐ 中程度の痒みがあるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い痒みがあり、日常生活に影響 がある。
皮疹	☐	☐ 軽い皮疹がある。	☐ 中程度の皮疹があるが、 日常生活に影響は少ない。	☐ 強い皮疹があり、日常生活に影響 がある。

その他
(服薬状況等含む)

<今回医師に伝えたい事項>

<今回指導した内容・提案事項等>

◎トレーニング レポートひな形

左：抗がん剤用

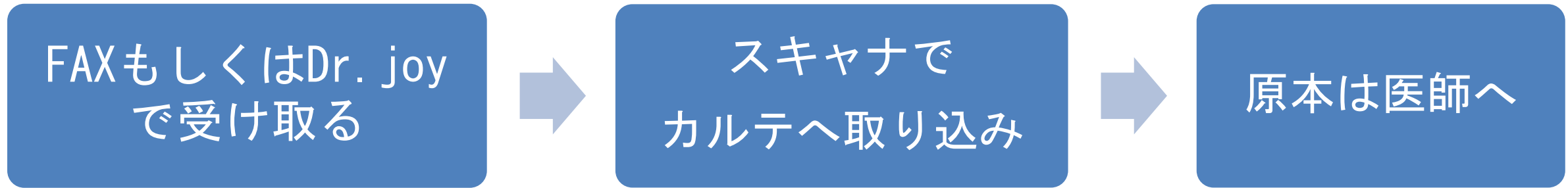
右：免疫チェックポイント
阻害薬用
(irAE自覚症状のチェック)

◎連絡方法

- ・ FAX
- ・  **Dr. JOY** (近隣薬局)

※緊急性のある症状や
G3以上の症状は
直接病院へ電話連絡を
お願いします。

院内でのトレーシングレポートの流れ



薬剤部の対応

- ・ 医師への伝達事項や処方提案があればカルテ掲示板へ記載
- ・ 必要に応じて医師へ電話で報告

本日の内容

- 当院化学療法室について
- 連携充実加算/トレーシングレポートについて
と当院における流れ
- トレーシングレポートでのフォローアップ内容

薬剤師としてフォローアップしたい事

①副作用対応のサポート

- ・有事使用薬の適正使用(制吐剤、緩下剤・止瀉薬、鎮痛薬など)
- ・処方提案

②重大な副作用の早期発見・受診勧奨

- ・G3以上の副作用、アレルギーやirAEを疑う症状

③薬剤の管理・使用状況、使用薬剤の確認

- ・アドヒアランス確認
- ・相互作用(他院薬剤)
- ・ポリファーマシー
- ・残薬確認

薬剤師としてフォローアップしたい事

①副作用対応のサポート

- ・有事使用薬の適正使用(制吐剤、緩下剤・止瀉薬、鎮痛薬など)
- ・処方提案

②重大な副作用の早期発見・受診勧奨

- ・G3以上の副作用、アレルギーやirAEを疑う症状

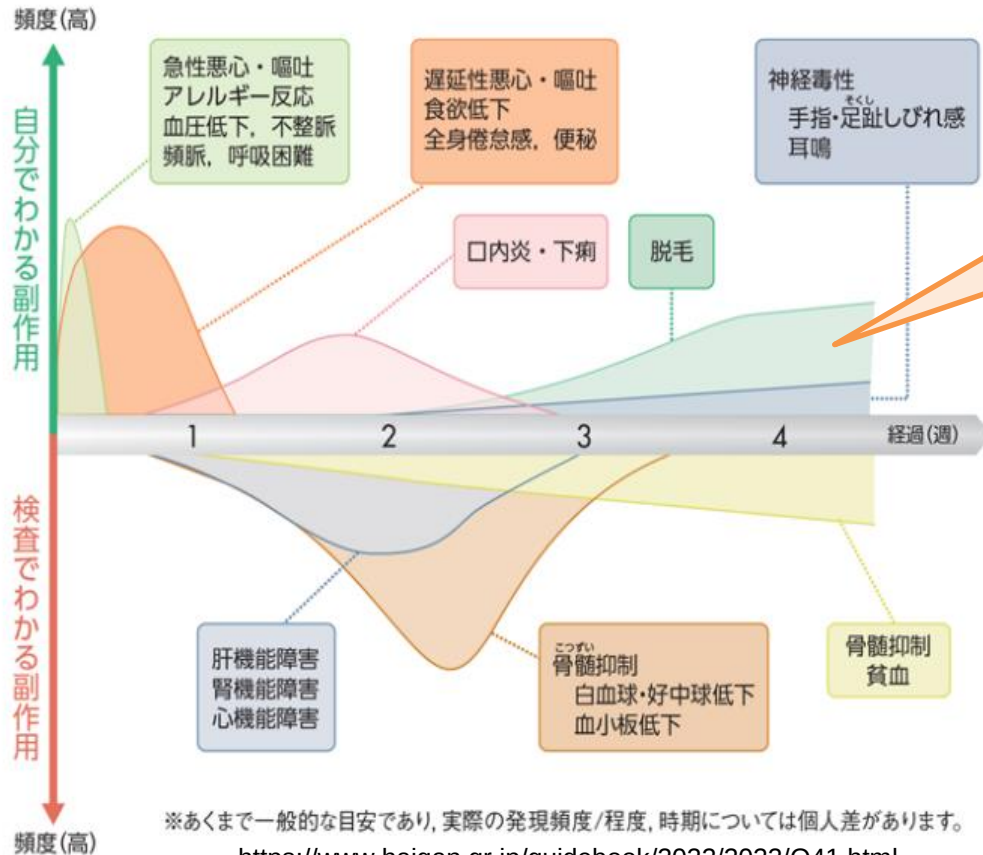
③薬剤の管理・使用状況、使用薬剤の確認

- ・アドヒアランス確認
- ・相互作用(他院薬剤)
- ・ポリファーマシー
- ・残薬確認

①副作用対応のサポート

☒ 抗がん剤の主な副作用と発現時期の目安

出典：国立がん研究センター がん情報サービス「化学療法全般について」



※あくまで一般的な目安であり、実際の発現頻度/程度、時期については個人差があります。

<https://www.haigan.gr.jp/guidebook/2022/2022/Q41.html>

患者さんの来院日 = 抗がん剤投与日が多い

➡ 副作用の発現時期は自宅で過ごしている



・有事使用薬の適正使用が重要
(制吐剤、緩下剤・止瀉薬、鎮痛薬etc.)

・既に処方されている薬剤では不十分
・新たな副作用が出現し薬剤が必要

→処方提案

①副作用対応事例 【高血圧】

[患者] 70代男性
[診断] 直腸癌術後肝転移
[治療] レゴラフェニブ



20●●年01月11日 レゴラフェニブ内服開始

20●●年03月07日 薬局フォローアップ時に自宅血圧が160～170/90へ上昇と確認

処方医へ問い合わせ  レゴラフェニブ休薬となった

20 ●●年03月08日(トレーシングレポート)

レゴラフェニブ3月8日から休薬するよう伝達しています。次回、血圧確認お願いいたします。

その後も自宅血圧150～160台/90台で経過

20●●年03月14日 アムロジピン2.5mg追加

(自宅血圧130台へ低下)

20●●年03月28日 レゴラフェニブ内服再開

抗悪性腫瘍剤 / キナーゼ阻害剤

スチバーガ錠 40mg

Stivarga® tablets 40 mg

レゴラフェニブ錠

薬価基準収載

劇薬、処方箋医薬品^(注)

(注) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること

高血圧, 高血圧クリーゼ

- 高血圧, 高血圧クリーゼが報告されています。
スチバーガ投与開始前及び投与中は定期的に血圧測定を行ってください。
・高血圧があらわれた場合には, 降圧剤の投与など適切な処置を行ってください。
- 高血圧が悪化するおそれがあるため, 慎重に投与してください。

発現状況

- 切除不能な大腸癌に対する国際共同第Ⅲ相臨床試験 (試験14387, CORRECT) における高血圧関連副作用

MedDRA Ver19.0 PT (基本語)	国際共同第Ⅲ相臨床試験 (試験14387, CORRECT)					
全体集団	スチバーガ群 (N=500)			プラセボ群 (N=253)		
	全グレード n(%)	グレード3 n(%)	グレード4 n(%)	全グレード n(%)	グレード3 n(%)	グレード4 n(%)
高血圧関連事象	139 (27.8)	37 (7.4)	0	15 (5.9)	2 (0.8)	0
高血圧	139 (27.8)	37 (7.4)	0	15 (5.9)	2 (0.8)	0
高血圧クリーゼ	1 (0.2)	1 (0.2)	0	0	0	0
日本人集団	スチバーガ群 (N=65)			プラセボ群 (N=32)		
	全グレード n(%)	グレード3 n(%)	グレード4 n(%)	全グレード n(%)	グレード3 n(%)	グレード4 n(%)
高血圧関連事象	39 (60.0)	7 (10.8)	0	1 (3.1)	0	0
高血圧	39 (60.0)	7 (10.8)	0	1 (3.1)	0	0

グレードはCTCAE Ver.3.0に基づいて判定されています。グレード4,5の発現はありません。

発現時期

国際共同第Ⅲ相臨床試験において, 多くはスチバーガ投与開始から2ヵ月以内に, 特に投与開始から1ヵ月以内で多く認められました。

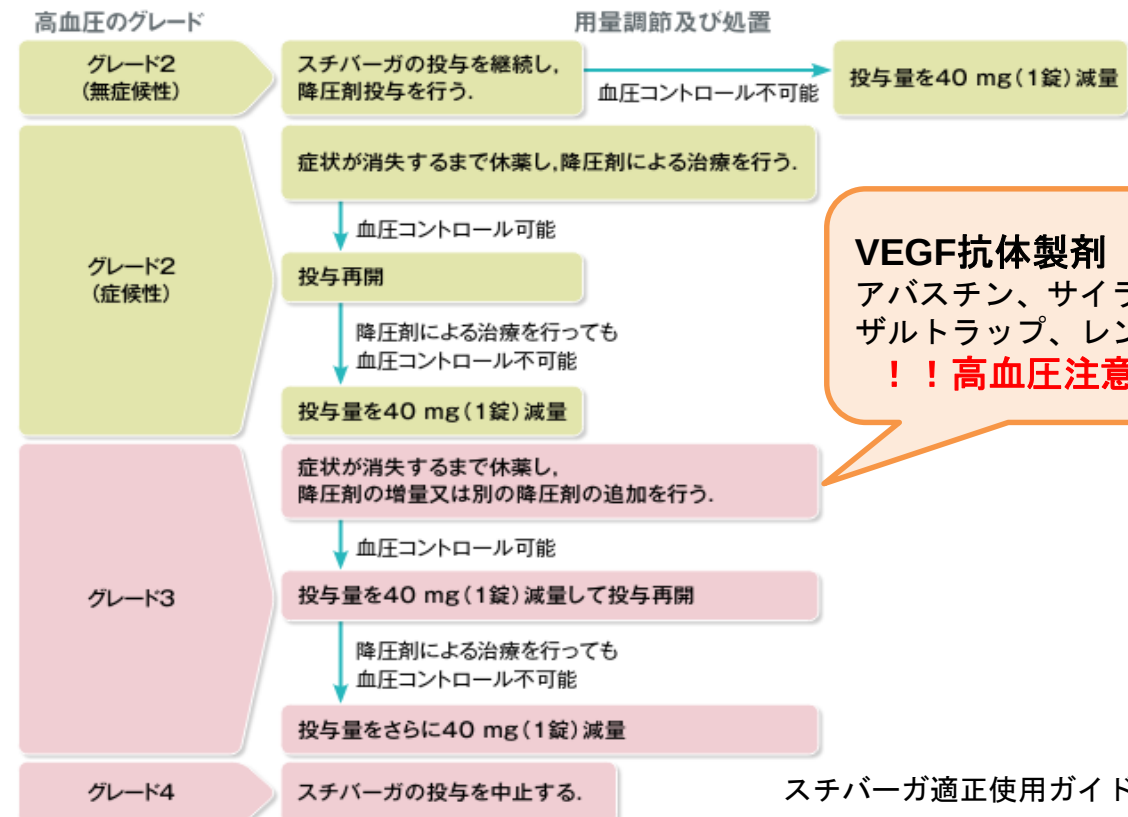
対処法

早期発見, 及び重篤化の予防のため, 定期的な血圧測定を行ってください。

- ・来院時の測定結果, 及び自己測定結果は, 医療従事者が確認するようにしてください。
- ・血圧の異常上昇がみられた際には, 施設あるいは主治医へ連絡する, 予定より早く来院するなどの対応を, 患者へご指導ください。

スチバーガ投与開始前及び投与中は定期的に血圧測定を行い, 必要に応じて降圧剤の投与を行うなど, 適切な処置を行ってください。症候性又は降圧治療でコントロールできない場合はスチバーガを休薬してください。

● 高血圧に関する用量調節基準



薬剤師としてフォローアップしたい事

①副作用対応のサポート

- ・有事使用薬の適正使用(制吐剤、緩下剤・止瀉薬、鎮痛薬など)
- ・処方提案

②重大な副作用の早期発見・受診勧奨

- ・G3以上の副作用、アレルギーやirAEを疑う症状

③薬剤の管理・使用状況、使用薬剤の確認

- ・アドヒアランス確認
- ・相互作用(他院薬剤)
- ・ポリファーマシー
- ・残薬確認

②重大な副作用の早期発見・受診勧奨事例 【重症化の恐れのある皮膚症状】

[患者]70代男性

[診断]前立腺癌

[治療]ビカルタミド錠＋リュープロレリン注

20●●年02月27日 ビカルタミド錠 開始

20 ●●年03月12日 リュープロレリン注 開始予定

20 ●●年03月09日(トレーシングレポート)

03月05日頃より**体幹部の皮疹、掻痒感**を認めたとご家族より電話相談がありました。
現在は改善しているとのことですが、**口唇の浮腫**を認めたとお話があり、
軽度の様でしたが粘膜傷害が疑われるため、念のため病院へ受診相談するよう
お伝えさせていただいております。



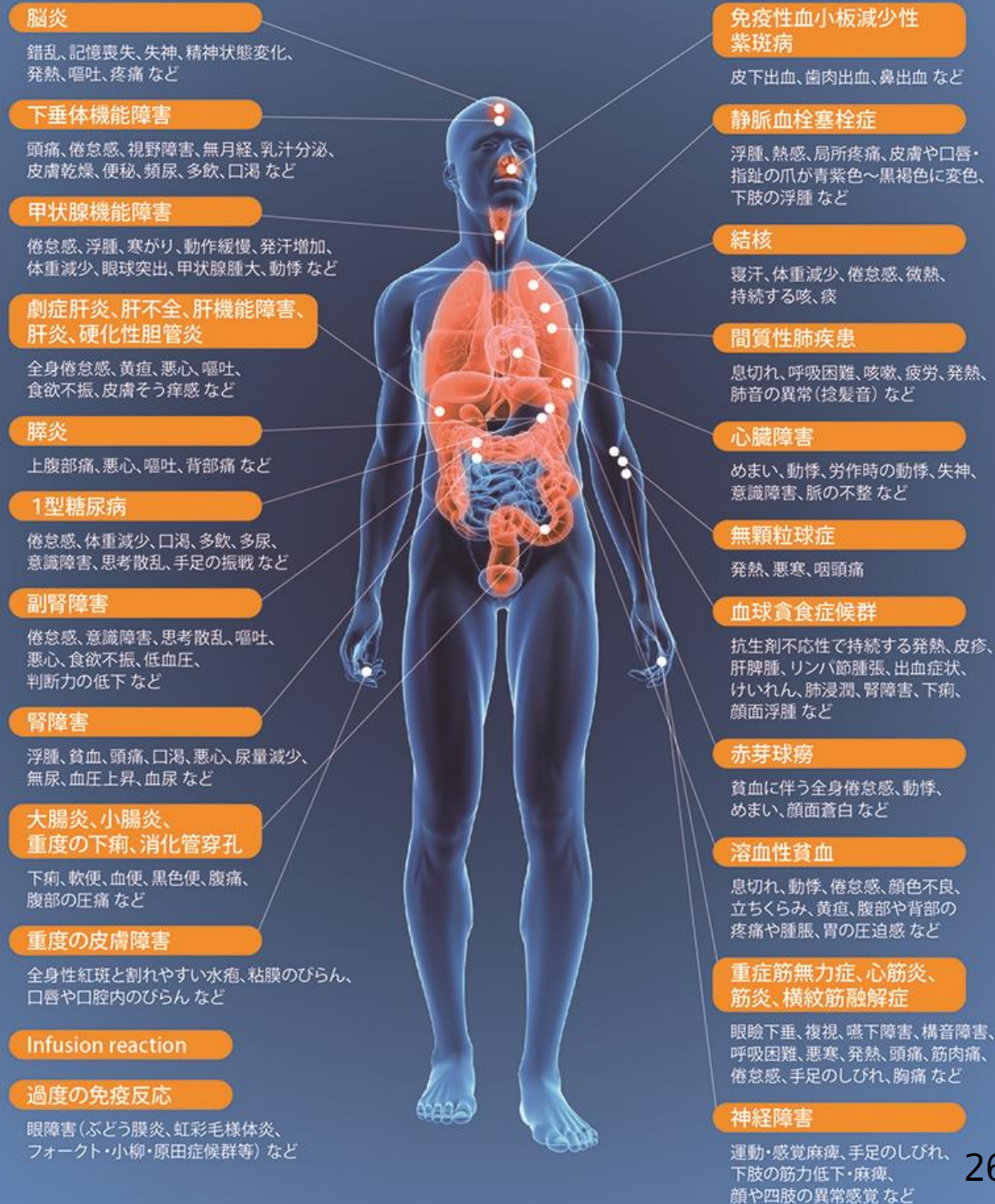
ビカルタミド内服中止になり
リュープロレリン注単剤での治療の方針となった。

irAE（免疫関連副作用）

- 間質性肺炎
- 大腸炎
- 皮膚障害
- 下垂体機能障害
- 副腎障害
- 甲状腺機能障害
- 1型糖尿病
- 心筋炎

etc.

irAEアトラスより



irAEの出現時期

- irAEはいつでも出現する可能性がある
- 通常ICI開始後数週～数ヶ月で出現する
(中央値は2-16週程度)
- ICI開始数日後で出現することもある、ICI治療終了後2年経過して出現することもある
- 致命的なirAE（心筋炎や重症筋無力症など）に関してはICI投与後2週間以内に発現しやすいという報告もある

発現頻度が高いもの

●皮膚障害

- ☐発疹がある
- ☐皮膚に痒みがある

●内分泌障害

- ☐体がだるい
- ☐食欲が落ちる
- ☐吐き気がある

●大腸炎・下痢

- ☐明らかに下痢が増えた
- ☐便に血が混ざる

●間質性肺炎

- ☐息苦しい
- ☐空咳が増えた
- ☐37.5℃以上の発熱



発現頻度が低いもの

●心筋炎

- ☐息苦しい
- ☐むくみや体重増加がある
- ☐動悸がする
- ☐まぶたが下がってくる
- ☐物が二重に見える

●重症筋無力症・筋炎・神経障害

- ☐まぶたが下がってくる
- ☐物が二重に見える
- ☐筋肉痛がある
- ☐急に力が入らなくなった
- ☐急に食べ物が飲み込みにくくなった
- ☐手足が痺れるようになった

●1型糖尿病

- ☐喉がひどく渴く
- ☐水を多く飲む
- ☐尿量が増える

●サイトカイン放出症候群

- ☐38℃以上の高熱がある

irAEチェックシート

※こちらに記載されている以外の副作用もあります
また治療終了後に副作用が出現する事もあります

薬剤師としてフォローアップしたい事

①副作用対応のサポート

- ・有事使用薬の適正使用(制吐剤、緩下剤・止瀉薬、鎮痛薬など)
- ・処方提案

②重大な副作用の早期発見・受診勧奨

- ・G3以上の副作用、アレルギーやirAEを疑う症状

③薬剤の管理・使用状況、使用薬剤の確認

- ・アドヒアランス確認
- ・相互作用(他院薬剤)
- ・ポリファーマシー
- ・残薬確認

③薬剤の管理状況・使用状況、使用薬剤の確認事例【相互作用】

[患者]80代女性
[診断]左乳癌術後
[治療]アナストロゾール



20 ●●年10月18日 アナストロゾール開始

20 ●●年12月13日(トレーシングレポート)

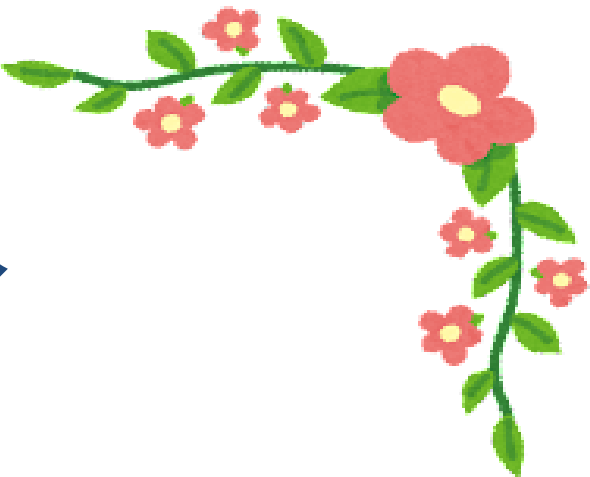
お薬手帳より併用薬を確認し、現在使用中のアナストロゾールの効果を落としてしまう
エビスタを〇〇病院より処方され使用中でしたので、ご報告させていただきます。



エビスタ内服中であることは既に主治医承知で
12月19日受診時にエビスタ処方元病院へ薬剤変更依頼の診療情報提供書を骨塩定量結果添えて
患者へお渡し。

Take home message

- 外来で化学療法治療を行う患者は増えてきており、質向上のため薬剤師の積極的な関与が求められて来ている。
- 外来の場合、自宅で生活をしながら治療を行うため、副作用コントロールや重篤な副作用の早期発見が重要であり、適切なフォローアップが必要になる。
- 抗がん剤治療情報提供書とトレーニングレポートを活用し、薬薬連携を深めていきましょう。



最後に…調剤薬局の皆様へ

いつも

トレーシングレポートをはじめ患者情報のご提供や
患者フォローアップをしていただき
ありがとうございます
今後ともよろしくお願い致します



ご視聴ありがとうございました

ご質問・ご意見・ご感想等あればお気軽にご連絡ください。
病院見学のご希望も随時受け付けています。

kameiyaku@saitama-med.jrc.or.jp

(さいたま赤十字病院 亀井)

講演終了後のスライドにも連絡先が記載されています。

